

平成 25 年 2 月 22 日  
世界遺産条約採択 40 周年記念事業  
京都実行委員会  
(担当：計画推進課 電話 075-414-4539)

世界遺産条約採択 40 周年記念  
「未来につなぐ世界遺産 京都アピール」の策定について

この度、世界遺産条約採択 40 周年記念最終会合の京都開催を記念し、世界遺産をはじめ文化財の保護・継承に重要な役割を担う若者等の意識の高揚を図ることを目的に、起草委員会を設置し、次のとおり、独自のアピールを策定しましたのでお知らせします。

また、結成 30 周年を迎えられた京都うずら野ライオンズクラブから、同アピールを掲載した記念モニュメントの寄贈の申出を受けております。設置場所や除幕式の日時等詳細については改めてお知らせします。

「未来につなぐ世界遺産 京都アピール」

- 地域の文化遺産に関心を持ちましょう
- 地域の文化遺産について学び、その大切さを理解しましょう
- 地域の文化遺産の素晴らしさを身近な人に、世界の人々に伝えましょう
- 地域の文化遺産を守るための活動に参加しましょう
- 地域の文化遺産を支える「ひと、わざ、もの」を守り育てましょう
- 地域の文化遺産を活かすことで維持し、未来につなぎましょう

平成 24 年 11 月、ユネスコの世界遺産条約採択 40 周年記念最終会合が京都で開催され、その成果として「京都ビジョン」がまとめられました。

「京都ビジョン」には、地域社会が世界遺産をはじめあらゆる文化遺産の保全と管理に積極的にかかわり、遺産を活かすことによってその社会全体が発展していくことの重要性がうたわれています。

私たちは、世界遺産「古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）」をはじめとして、日本国内に集積する有形・無形の文化遺産を、災害や大火など幾多の困難を乗り越え長きにわたり守り継いできた歴史を持っています。文化遺産への思いが人々の絆を深め、その絆で結びついた地域社会が文化遺産を守ってきたのです。

今ここに、世界遺産が先人の心と地域社会の絆により今日まで引き継がれてきたことに感謝するとともに、世界遺産が世界平和の実現に果たす期待の大きさを再確認します。

そして、世界遺産をはじめあらゆる文化遺産が地域社会の発展と世界平和に貢献することを強く願って、開発の圧力や紛争、自然災害などの深刻な課題を有する地域をはじめ、全世界に向けて、地域社会としての文化遺産へのかかわり方をアピールします。

平成 25 年 2 月

世界遺産条約採択 40 周年記念事業京都実行委員会

(参考) 起草委員会委員

千 玄 室 茶道裏千家前家元、ユネスコ親善大使

松浦 晃一郎 明日の京都 文化遺産プラットフォーム会長、前ユネスコ事務局長

吉田 博 宣 京都府文化財保護審議会会長、京都大学名誉教授

井上 満 郎 京都市文化財保護審議会会長、京都産業大学名誉教授、京都市歴史資料館長

世界遺産条約採択 40 周年記念最終会合  
「世界遺産と持続可能な開発：地域社会の役割」  
(11 月 6 日～8 日，於：京都)

## 京都ビジョン（ポイント）

平成 24 年 11 月 8 日

### 序文

世界遺産と地域社会との関係は、世界遺産条約の中心であり、人口増加と開発圧力、グローバルな金融危機、気候変動など、現在世界が直面している課題に取り組む基礎を成す。

### 世界遺産条約の 40 年の成果

- 世界遺産条約は、文化遺産と自然遺産の保存を一つの枠組みで実現していくための最も強力な手段の一つである。またこの条約は、人類共通の遺産としての世界遺産の重要性を強調し、遺産保護のための国際協力の促進を通じて、社会の結びつき、対話、寛容、文化的多様性と平和に大きく貢献している。
- 世界遺産条約は、その歴史の中で、政策と運用を通じ、遺産保護のグローバルな標準を提供してきた。これまで遺産の保存に関わった全ての関係者に敬意を表するとともに、条約の将来に向け、次の世代を担う青年の役割が重要であることを認識する。
- その一方で、開発による圧力や紛争、災害、さらに、世界遺産一覧表が真に世界の遺産をバランスよく反映しているかといったものまで、多くの課題が生じている。特に、開発途上国における遺産保護のための技術、人材、財源の決定的な不足を懸念する。

### 持続可能な地球と世界遺産の役割

- 地球の持続可能性を如何に確保していくかが大きな課題である今日、そのために必要な変革を、ポスト 2015 年開発目標に反映させていかななくてはならない。
- 人間を主役に据えた遺産の保存は、持続可能な開発及び、社会とそれを取り巻く環境との調和した関係を再構築するための重要な学習モデルとなり得る。社会と環境との相互作用の結果としての遺産は、持続可能な開発の論理の基礎である。これは「生物多様性戦略計画 2011-2020」及び「愛知目標」など、関連の国際的政策にも強調されており、その達成は、文化・自然遺産にとって極めて有益である。
- 文化・自然遺産の多様性を認識し、遺産から得られる利益を公平に共有することにより、他者との相互尊重が促進され、コミュニティに社会としての結びつきがもたらされる。

## コミュニティの役割の重要性

- ・ 世界遺産条約履行のための戦略的目標に「5 つめの C」(注) としてコミュニティが掲げられているとおり、世界遺産の保護のためには、地域社会と先住民を含むコミュニティが重要な役割を果たしている。
- ・ 世界遺産条約が、その目的の一つとして、遺産に「社会(コミュニティ)生活における役割」を与えることを掲げている(第 5 条)ことから、コミュニティは遺産の保存・管理に十分に参画する必要がある。
- ・ 文化・生物多様性の尊重に基づく人々と遺産との強化された関係のみが、「我々の求める未来」の達成を可能とする。この関係は、様々な分野からの幅広い参加を得た遺産の保存へのアプローチにより成立する。世界遺産を管理していく上で、長期的な持続可能な開発の観点なしでは、世界遺産の「顕著で普遍的な価値」を守ることは困難である。
- ・ この観点から、文化・自然遺産から生じる利益は、遺産管理主体と専門家との協力を通じ、持続可能な開発の促進のため、コミュニティに公正に分配されなくてはならない。
- ・ この新しいアプローチと検討のためには、関係機関、政策決定者、遺産の実務関係者、コミュニティからネットワークに至るまで、あらゆるレベルの人材養成が必要である。特にコミュニティにおける人材養成は、遺産から生じる利益のコミュニティへの還元のために強化されなくてはならない。コミュニティは、また、災害や気候変動への対策を含む遺産の管理と保存活動に、全面的に参画すべきである。

(注)世界遺産条約履行のための戦略的目標「5 つの C」:「信用性の確保(Credibility)」、「保存活動(Conservation)」、「能力の構築(Capacity building)」、「意思の疎通(Communication)」、「コミュニティの活用(Community)」(2002 年の世界遺産委員会で採択。5 つめの C(コミュニティ)は、2007 年の世界遺産委員会で追加された。)

## 行動への呼びかけ

このビジョンの実現に向け、京都会合の参加者は、国際社会に次の行動を起こすよう呼びかける。

- グローバルな規模での財源の確保。
- あらゆるレベルでの人材養成を含む、世界遺産と持続可能な開発の支援に向けた、コミュニティに関する経験、グッド・プラクティスと知識の共有。
- 世界遺産への脅威に効果的に対応するための責任を分かち合い、その持続可能な開発と全体的利益のために貢献すること。
- ポスト 2015 年開発目標の議論において、国際社会全体で、環境的、文化的、社会経済的ニーズを考慮し、世界遺産を考慮に入れること。
- 世界遺産に関わる全ての関係者の協力と連携を強化し、また、遺産の保存保護が社会全体の持続可能な開発に資するよう、地域社会と先住民、専門家、青年を世界遺産への推薦段階から保存に参画させること。
- 無形文化遺産、文化的・創造的産業など、世界遺産以外の領域を通じて、地域社会の持続性を確保すること。
- 世界遺産条約締約国会議において採択された「戦略的行動計画 2012-2022」を優先的に実施すること。

## 世界遺産条約採択40周年記念最終会合における記念事業等の開催結果

世界遺産条約採択40周年記念最終会合 11月6日(火)～8日(木)  
条約採択国(現在190か国)のうち60か国から約600人が参加

## &lt;本会合・プレ会合&gt;※太字ゴシック部分が実行委員会等事業

日 時	行事名	場 所		
11月3(土) 13:00～17:00	日本イコモス国内委員会セッション(参加者約50名) *フィンランド、イギリス、イタリアで文化遺産の保全等に取り組んできたイコモスの著名なメンバーを迎え、京都・宇治で世界遺産や文化財保護に努めてきた地域の方と意見交換を実施	萬福寺 (宇治市)		
11月4(日) 13:30～16:30	日本イコモス国内委員会シンポジウム(参加者約200名) *「地域で守り育む!みんなの文化遺産」をテーマに、国内外の専門家による基調講演、パネルディスカッションを実施	京大百周年時計台記念館		
11月5(月) 18:00～	日本政府主催歓迎レセプション	グランドプリンスホテル京都		
11月6(火)	9:30～12:00	開会セッション 他	京都国際会館	
	12:00～14:00	ランチブッフェ(会合参加者約400名) *日本料理文化博覧会実行委員会と連携し、会議参加者に、京料理弁当(400食)を提供 *天橋立、宇治茶(茶畑)等の3D映像を放映 *裏千家による呈茶を実施 ※7日のランチブッフェも同様		※セッションの休憩時に、宇治茶を提供(7日も同様)
	14:00～18:45	セッション		
	19:30～21:30	京都実行委員会主催歓迎レセプション *参加者約600名(会合参加者、地元関係者等) *会場で、天橋立、宇治茶(茶畑)等の映像を放映 *宇治茶、おぼんざいを提供		ウェスティン都ホテル京都
11月7(水)	9:00～13:00	セッション	京都国際会館	
	13:00～14:30	ランチ・ブッフェ(会合参加者約400名)		
	14:30～19:00	セッション		
	16:50～17:50	ボコバ・ユネスコ事務局長との懇談 *最終会合の京都開催の意義、今後の文化遺産の保護・継承のあり方についての懇談を実施 <懇談者> ・イリーナ・ボコバユネスコ事務局長 ・松浦晃一郎 明日の京都文化遺産プラットフォーム会長(前ユネスコ事務局長) ・千 玄室 ユネスコ親善大使(茶道裏千家前家元) ・有馬 頼底 明日の京都文化遺産プラットフォーム理事(京都仏教会理事長・臨済宗相国寺派管長) ・山田 啓二 京都府知事 ・門川 大作 京都市長	裏千家センター	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾 功 ユネスコ日本国特命全権大使</li> <li>・土岐 憲三 明日の京都文化遺産プラットフォーム副会長（立命館大学教授）</li> </ul>	
11月8(木)	9:00～11:00	閉会セッション 他	京都国際会館
	13:00～18:00	<b>視察プログラム</b> ＊上賀茂神社、下鴨神社、南禅寺、東寺、二条城、金閣寺、龍安寺、宇治上神社、平等院など6コースの視察プログラムを実施 ＊お茶体験や茶商家を視察する「宇治コース」も設定	京都府・滋賀県等

<参考：関連行事等>

	日 時	行事名	主催	場 所	
開催前	7月～11月	—	府内児童による世界遺産の絵画コンクールと入選作の府内巡回	明日の京都文化遺産プラットフォーム	京都府内
	8月4日(土)	11:00～	京の名店 ワンコインフェスティバル	日本料理文化博覧会実行委員会	KRP 大阪ガス・ディリパ京都
	10月14日(日)	13:00～	日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録をめざすシンポジウム	山城地域実行委員会	宇治茶会館
	10月28日(日)	10:30～	宇治茶フェスタ2012	同 上	イオンモール京都
	11月上旬		京都の世界遺産4K映像放映等のイベント	TBS・ソニー	京都駅前広場
開催中	11月5日(月)～11日(日)	—	京料理ウィーク(京都市内の料亭で特別料金の京料理を提供)	日本料理文化博覧会実行委員会	京都市内料亭
開催後	11月9日(金)	10:00～	食文化セッション	同 上	西本願寺
	11月9日(金)～11日(日)	10:00～	日本の食文化展示会	日本料理文化博覧会実行委員会	八坂倶楽部
	11月10日(土)	18:00～	京の食文化体験	同 上	建仁寺
		13:00～	きょうと食育フォーラム	農林水産部	KRP 大阪ガス・ディリパ京都
	11月11日(日)		宇治茶・伏見の酒の郷を訪ねて	鴨川文化回廊実行委員会	宇治・伏見

## 世界遺産条約採択40周年記念事業山城地域実行委員会の取組について

世界遺産条約採択40周年記念最終会合に合わせて、京都府と山城地域の15市町村及び関係団体が一体となって、山城・乙訓地域における文化・観光資源をPRするとともに、山城地域の府民や茶業関係者の日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録に向けた気運を盛り上げるため、シンポジウムをはじめ各種取組を実施した。

### 1 山城地域PR事業の実施

山城・乙訓地域の宇治茶をはじめとする特産物や文化・観光資源をPRするためのパンフレット「歴史と文化が香る 宇治茶と京都やましろ」（日本語版・英語版）を作成し、世界遺産に係るシンポジウムなどの各種行事等で配付し、京都山城の魅力をPR。

### 2 世界遺産に係るシンポジウムの開催

日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録に向けた気運を盛り上げることを目的に、「日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録をめざすシンポジウム 『宇治茶』は世界の宝～宇治茶とやましろの魅力を再発見～」と題して、山城地域の府民や茶業関係者を対象にしたシンポジウムを開催。

平成24年10月14日（日） 宇治茶会館

### 3 山城地域魅力視察ツアー（視察プログラム）の実施

世界遺産条約採択40周年記念最終会合事業の視察プログラムのひとつとして、宇治茶をはじめとする山城地域の魅力を知ってもらうツアーを実施。

平成24年11月8日（木） 宇治市内の世界文化遺産を中心としたコース

### 4 関係団体での諸行事におけるPR活動の実施

(1) 関連行事にサブタイトル「日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に」を付けてPR。

- ・宇治茶・京都やましろ観光フェア（H24.8.25（土）イオン茨城ショッピングセンター）
- ・宇治茶フェスタ2012（H24.10.28（日）イモールKYOTO）

(2) 啓発資材によるPR

- ・「宇治茶を世界遺産に」のパネルやのぼりを作成し、宇治茶に関するイベント等で掲示

(3) 各種媒体を活用した取組のPR

- ・宇治茶の郷通信9月号、府民だより10月号、宇治茶の郷めぐり2012
- ・山城広域振興局ホームページ、宇治茶の郷メールマガジン 等

### (参 考)

世界遺産条約採択40周年記念事業山城地域実行委員会

構成団体：京都府山城広域振興局、山城管内15市町村

（公社）京都府茶業会議所、宇治茶の郷づくり協議会会員

会長：京都府山城広域振興局長 副会長：宇治市長、（公社）京都府茶業会議所会頭

## 世界遺産条約採択40周年記念事業

### 日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録をめざすシンポジウム

#### 『宇治茶』は世界の宝～宇治茶とやましろの魅力を再発見～

世界遺産条約採択40周年を記念して、山城地域を中心とする府民や関係者の皆様に「宇治茶とやましろの魅力」を知っていただくためのシンポジウムを開催したところ、250人の方に参加いただきました。

有識者による基調講演や特別報告に続き、「『宇治茶』は世界の宝～宇治茶とやましろの魅力を再発見～」と題したパネルディスカッションを実施。また、これに先駆けて、二條流による宇治茶「玉露」を和菓子とともにおもてなしいただき、地域の価値を再発見することの大切さ、地域づくりには実践の積み重ねが大切など、貴重なお話に、多くの参加者が熱心に耳を傾けていました。

◎ 日 時 平成24年10月14日（日）

13：00～14：00 二條流によるお茶席

14：00～16：40 シンポジウム

◎ 会 場 宇治茶会館（京都府宇治市）

◎ 主 催 世界遺産条約採択40周年記念事業山城地域実行委員会

◎ 内 容

#### ○基調講演

##### 「宇治茶の世界文化遺産登録の意義と課題」

金田章裕 氏 日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録検討委員会委員長、人間文化研究機構機構長

#### ○特別報告

##### 「文化的景観の保全と両立を可能とする地域づくりの取組」

広田純一 氏 岩手大学教授

#### ○パネリストディスカッション

##### 「『宇治茶』は世界の宝～宇治茶とやましろの魅力を再発見～」

コーディネーター：井上典子 氏 京都府立総合資料館・国際京都学センター 文化資源コーディネーター

パネリスト：上杉和央 氏 京都府立大学准教授

橋本素子 氏 京都光華女子大学非常勤講師

広田純一 氏 岩手大学教授

吉田利一 氏 京都府茶生産協議会会長



金田氏による基調講演



広田氏による特別報告



パネルディスカッション



会場の様子



パネル展示の様子



二條流によるお茶席



## 世界遺産条約採択40周年記念事業 山城地域魅力視察ツアー（視察プログラム）

世界遺産条約採択40周年記念事業京都実行委員会、同山城地域実行委員会事業として、世界遺産条約採択40周年記念最終会合参加者を対象に、世界遺産視察プログラムのひとつとして視察ツアーを実施し、各国から25名の方に参加いただきました。

修復中の世界文化遺産「平等院」鳳凰堂、宇治上神社の見学の後、宇治茶道場“匠の館”での玉露の淹れ方体験などをコースとした内容で、平等院の修復現場では、府文化財保護課職員の説明に熱心に聞き入ったほか、“匠の館”では、宇治茶の美味しさに、皆さん感心されるなど、実りの多いツアーとなりました。

◎ 日 時 平成24年11月8日（木）

13:00～17:15

◎ コース 国立京都国際会館～平等院～宇治上神社～宇治茶道場“匠の館”～お茶の文化的景観（平等院表参道等）

◎ 主 催 世界遺産条約採択40周年記念事業京都実行委員会  
世界遺産条約採択40周年記念事業山城地域実行委員会

◎ 特 徴

世界文化遺産「平等院」、「宇治上神社」とともに、宇治茶の魅力を味わっていただくためのコースとして設定

このほか、「京都実行委員会」が、「世界遺産視察プログラム」として5コースを設定



平等院住職によるあいさつ



平等院鳳凰堂修復現場



宇治川・橋橋



宇治上神社



“匠の館” 玉露体験